

科目名	内部障害理学療法学	担当教員	信太 雅洋 森野 陽 小山 昭人 ※印は実務経験のある教員を示す。
-----	-----------	------	--

開講専攻	分野	種別	配当年次	開講時期	単位数	授業形態
理学療法学専攻	専門科目	選択	3年生	前期	2単位	講義
ナンバリングコード	卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目の関連					
HR31E	②					

科目概要	呼吸器・循環器疾患に対するリハビリテーションについて学習する。呼吸器疾患に関しては、主にCOPD、間質性肺炎、肺炎に対する呼吸リハビリテーションについて、循環器疾患に関しては、主に虚血性心疾患、心不全、大血管疾患に対するリハビリテーションについて、その理論的背景から評価、治療までを中心に学習する。
学習目標	<p>【代謝障害（糖尿病）】</p> <p>① 2型糖尿病の病態および合併症を理解する。</p> <p>② 血糖コントロールに必要な検査、治療（食事・運動・薬物）について学ぶ。</p> <p>③ 患者教育の重要性について学ぶ。</p> <p>【呼吸器】</p> <p>① 呼吸障害ならびに呼吸リハビリテーションの概念を理解できる。</p> <p>② 疾患別の呼吸リハビリテーションについて理解できる。</p> <p>【循環器】</p> <p>① 虚血性心疾患、心不全、大血管疾患のリハビリテーションについて理論的背景を理解できる。</p> <p>② 心筋梗塞のリハビリテーション（評価、治療）を理解できる。</p>

回	項目	主な学習内容	到達目標	実務経験 教員担当 項目
1	オリエンテーション 呼吸リハビリテーション(1)	オリエンテーション 呼吸リハビリテーション概論	呼吸リハビリテーションの役割ならびに構成要素を理解する。	
2	呼吸リハビリテーション(2)	呼吸リハビリテーションにおける評価	呼吸リハビリテーションに必要な検査値、フィジカルアセスメント、運動耐容能、健康関連QOLの評価について理解する。	
3	呼吸リハビリテーション(3)	COPDに対する呼吸リハビリテーション	COPDに対する呼吸リハビリテーションの評価から治療の実際までの一連の流れを理解する。	
4	呼吸リハビリテーション(4)	間質性肺炎、誤嚥性肺炎に対する呼吸リハビリテーション	間質性肺炎ならびに誤嚥性肺炎に対する呼吸リハビリテーションの評価から治療の実際までの一連の流れを理解する。	
5	呼吸リハビリテーション(5)	急性呼吸不全、周術期の呼吸リハビリテーション	急性呼吸不全、周術期の呼吸リハビリテーションの評価から治療の実際までの一連の流れを理解する。	
6	心臓リハビリテーション(1)	オリエンテーション 概論	人体構造機能学を確認する。 心臓リハビリテーションの概要を理解する。	
7	心臓リハビリテーション(2)	循環器疾患の病態（虚血性心疾患・弁膜疾患・不整脈）	理学療法の対象となる、代表的な循環器疾患の病態を理解する。	
8	心臓リハビリテーション(3)	運動生理（特に運動耐容能や酸素運搬系）	運動生理（特に運動耐容能や酸素運搬系）について理解する。	
9	心臓リハビリテーション(4)	心臓疾患の評価（観血的評価・非観血的評価）	心臓疾患の観血的評価・非観血的評価について理解する。	
10	心臓リハビリテーション(5)	心臓リハ（心筋梗塞リハの病期区分と各期の考え方）	心筋梗塞のリハビリテーションの概要を理解する。	

11	糖尿病の概念	疾患の考え方、診断、糖尿病の経過と合併症	2型糖尿病の病態および合併症を理解する。
12	検査と治療	診断のための検査、臨床検査値、治療目標	血糖コントロールに必要な検査、治療（食事・薬物）について理解する。
13	糖尿病の理学療法	血糖コントロールのメカニズム 運動療法、リスク管理	理学療法の必要性を理解する。
14	患者教育	継続するための治療、患者心理と教育	患者教育の重要性について理解する。
15	まとめ	まとめ	本講義で学んだ事柄について、それぞれ関連付けて説明することができる。
評価方法		筆記試験 100%	
課題に対するフィードバック		1 講義中・講義終了後に質問を受け、回答する。 2 定期試験の解説は、オフィスアワーの時間帯で対応する。	
教科図書		【代謝障害（糖尿病）】 日本糖尿病学会編・著『糖尿病治療ガイド 2022-2023』文光堂、2022年 【呼吸器・循環器】 細田多穂・監『内部障害理学療法学テキスト 改訂第4版』南江堂、2022年	
参考図書		【代謝障害（糖尿病）】 清野裕 他・監『糖尿病の理学療法』メジカルビュー社、2015年 【呼吸器】 日本呼吸ケア・リハビリテーション学会呼吸リハビリテーション委員会ワーキンググループ 他・編著『呼吸リハビリテーションマニュアル運動療法 第2版』照林社、2012年 高橋仁美 他・編『動画でわかる呼吸リハビリテーション 第3版』中山書店、2012年 玉木彰・編『15 レクチャーシリーズ理学療法テキスト 内部障害理学療法学 呼吸 第2版』中山書店、2017年 千住秀明 他・監『呼吸理学療法標準手技』医学書院、2008年 医療情報科学研究所・編『病気がみえる（呼吸器）』メディックメディア、2013年 【循環器】 居村茂幸・監『ビジュアル実践リハ 呼吸・心臓リハビリテーション』羊土社、2009年 石川朗・総編集『15 レクチャーシリーズ理学療法テキスト 内部障害理学療法学 循環・代謝 第2版』中山書店、2017年 医療情報科学研究所・編『病気がみえる（循環器）第5版』メディックメディア、2021年	
学習の準備		（予習） 指定した教科書、もしくは事前に配布した資料について予習をしておくこと。（90分） （復習） 人体構造機能学Ⅰ（内臓・脈管系）、人体構造機能学Ⅱ（内臓・脈管系）、内部障害基礎論の講義内容を復習しておくこと。（90分）	
オフィスアワー		森野・信太：月・火・木・金曜日の16時30分から18時 小山：授業前後の30分間	
担当教員欄に※印を付した教員の実務経歴			